

【再評価】

番号	事業区分	事業名	事業概要	事業採択年度	事業費 (億円) 上:全体 下:R3未まで (進捗率)	前回評価年度	再評価 該当要件	事業進捗等の大きな変更の有無 (※1)				対応方針 (原案)	備考
								A	B				
									1	2			
1	河川	広島西部山系直轄砂防事業	広島西部山系は、人口・資産・公共施設等が集中し、重要交通網が横断する社会的に重要な地域であるが、繰り返し大規模な土砂災害が発生し、土砂災害に対し危険性は高い。 本事業は土石流による甚大な被害や社会的影響を軽減することを目的として集中的かつ計画的に直轄砂防事業を実施するものである。	H13	900 678 (75%)	H28再	再評価 後5年経過	無				継続	
2	道路	一般国道183号 鍵掛峠道路	一般国道183号は、広島県広島市から鳥取県米子市までを結ぶ延長約145kmの主要幹線道路である。 鍵掛峠道路は、鳥取県と広島県の県境部に位置し、高規格道路江府二次道路の一部を構成する広島県庄原市西城町高尾と鳥取県日野郡日南町新屋を結ぶ延長12.0kmの道路である。 事業目的は、線形不良の解消、災害時の代替ルートの確保、救急医療活動の支援、安定的な物流ネットワークの構築 等である。	H17	333 (37%)	H28再	再評価を 実施する 必要が生じ た事業	有	■			継続	重点
3	道路	一般国道2号 安芸バイパス	一般国道2号は、大阪市から北九州市に至る延長約680kmの主要な幹線道路であり、西日本の大動脈として沿道地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。 安芸バイパスは、国道2号の慢性的な交通混雑の緩和、交通安全の確保、周辺地域との連携強化を図ることを目的とした延長7.7kmの4車線道路である。	H7	680 (69%)	R2再	再評価を 実施する 必要が生じ た事業	有	■			継続	重点
4	道路	一般国道2号 東広島バイパス	一般国道2号は、大阪市から北九州市に至る延長約680kmの主要な幹線道路であり、西日本の大動脈として沿道地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。 東広島バイパスは、国道2号の慢性的な交通混雑の緩和、交通安全の確保、周辺地域との連携強化を図ることを目的とした延長9.6kmの4車線道路である。	S50	1,240 (86%)	R2再	再評価を 実施する 必要が生じ た事業	無				継続	
5	道路	一般国道185号 安芸津バイパス	一般国道185号は、広島県呉市から広島県三原市までを結ぶ延長約77kmの主要幹線道路である。 安芸津バイパスは、広島県東広島市安芸津町風早から竹原市吉名町矢代谷を結ぶ延長6.1kmのバイパス事業である。 事業目的は、線形不良の解消、災害時の代替ルートの確保、安全性・利便性の向上、救急医療活動の支援、安定的な輸送活動の支援等である。	H11	225 (47%)	H28再	再評価を 実施する 必要が生じ た事業	有	■	■		継続	重点
6	道路	一般国道2号 岩国・大竹道路	一般国道2号は、大阪府大阪市から、福岡県北九州市までを結ぶ延長約680kmの主要幹線道路である。岩国・大竹道路は、広島県大竹市小方一丁目と山口県岩国市山手町を結ぶ延長9.8kmのバイパスである。事業目的は、一般国道2号の交通混雑の緩和及び交通安全の確保、広島県と山口県の広域的な連携・交流である。	H13	1,330 (28%)	H28再	再評価を 実施する 必要が生じ た事業	無				継続	

(※1)【事業進捗等に大きな変更がある事業】となる選定要因(判定フローに該当のチェック)

- A: 事業を巡る社会経済情勢等の変化がある。
- B: 前回評価からの事業費・事業期間の増加が10%超である。
  - 1: 事業費の増加が10%超
  - 2: 事業期間の増加が10%超

【報告(国土交通省所管公共事業の再評価実施要領第6の6の規定に基づいて審議した事業)】

番号	事業区分	事業名	事業概要	前回評価年度	策定年度	変更年度 上:今回 下:前回	現計画 開始年度	現計画 終了年度	事業費 (億円) 上:全体 下:R2未まで (進捗率)	備考
1	河川	千代川直轄河川改修事業	千代川では、昭和54年10月台風、平成10年10月台風、平成16年9月台風等で甚大な被害が発生している。本事業は、千代川、袋川、袋川・新袋川、八東川における治水安全度の向上を目的に堤防整備や河床掘削等を実施するものである。	H29	H19	R2 -	H19	R8	110 88%	
2	河川	斐伊川直轄河川改修事業	戦後最大の被害をもたらした昭和47年7月洪水では、出雲空港が浸水により10日間閉鎖したほか、下流の松江市においても一週間にわたって浸水するなど、甚大な被害が発生した。近年では、平成18年7月洪水において、宍道湖で観測開始以降2番目の水位を記録し、大橋川沿いの松江市で2日間にわたって浸水が発生した。中海・境水道においても、平成14年、平成15年、平成16年等、高潮による浸水被害が頻発している。 再度災害防止の観点から、上流部で志津見ダム及び尾原ダムを整備するとともに、中流部で斐伊川から神戸川に洪水の一部を分流する斐伊川放水路を整備し、斐伊川本川の河道改修を実施する。また、大橋川の改修と中海・宍道湖の湖岸堤を整備するものである。	H28	H22	- -	H22	R11	1,415 62%	
3	河川	江の川総合水系環境整備事業	「三次市三川合流部かわまちづくり」は、三次市街地や市街地周辺の歴史的街並みゾーンなどの観光拠点とこれまでに整備した水辺の拠点(親水公園、水辺の乗校等)を結ぶ河川管理用通路を整備するなど、水辺利用の連続性・周遊性向上を図るものである。 また、「甲立箇所水辺の乗校整備」は、安芸高田市甲田地区において、子どもたちが自然体験活動等で安全に利用できる場を整備するものである。	H28再	H28	- -	H22※	R7	15.5 97%	R3.11.24「第3回江の川河川整備アドバイザー会議」

※江の川総合水系環境整備事業は、平成9年度より水辺整備事業として着手し、平成22年度より現事業として実施している。

# 令和3年度 第3回 中国地方整備局事業評価監視委員会 対象事業位置図

